

日本語学習者の独学と教室学習に関する調査
 STUDY OF SELF-TAUGHT AND CLASSROOM TAUGHT JAPANESE LANGUAGE
 LEARNERS

クラスナイいづみ, サスカチュワン大学
 Izumi Krasznai, University of Saskatchewan

1. はじめに

サスカチュワン大学の日本語講座は2014年に始まり、この3年間で日本語を履修した学生は、739名(2017年8月現在)である。この3年間、どのような日本語講座を作っていくべきかを日々考え、学生が日本語を学ぶ理由や目的などを調査してきた。

毎学期、授業の最初に学生にプロフィールを提出してもらっている。その中の記入項目の一つに、「なぜ日本語を履修したのか」という質問を設けているが、学生の答えの一つとして、「独学で学ぼうと思ったが大変だったから」「教室環境で学びたかったから」という答えが見られる。

オンラインツールやeラーニングなど、日本語教育を取り巻く環境は大きく変化しており、将来的には日本語教師という仕事がなくなるのではないかという声も聞かれる。しかし現状として、このように教室で学ぶことを求めて足を運ぶ学生がいる。このことから本稿では、2014年から日本語を履修した学生を対象にアンケート調査を行い、学生がなぜ教室環境で学びたいのか、教室に何を求めているのかを調べ、教室が果たす役割、教師の役割を考察する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、サスカチュワン大学の学生の独学経験の実態を調査し、学生が教室に足を運ぶ理由、教室学習に求めていることを明らかにし、教室学習や教師の役割を考察することである。これを明らかにするために、以下のリサーチクエスチョンを設定する。

- 1) 大学で日本語を履修する前に、独学で日本語を学んだことがある学生は、どのくらいいるのか。どのような方法で、どのくらいの期間、日本語を学んだのか。
- 2) 学生はなぜ教室で日本語を学ぶことを選んだのか。教室に何を求めているのか。

3. 調査方法

2014年9月から2017年4月まで日本語を履修した学生401名を対象に、2017年4月から5月の1ヶ月間、fluid surveyを使ってアンケート調査を行った。

4. 調査結果

アンケートの回答率は401名中77名(19.2%)であった。77名のうち、全質問に答えたのは62名(79.2%)であった。本稿では、この62名の回答を対象とする。以下、質問項目と回答結果を記述する。

1) あなたはサスカチュワン大学で日本語を履修する前に、独学をしたことがありますか。

a. はい、大学で日本語を履修する前に独学をしたことがある。	35.50%	22名
b. 大学で履修中、あるいは履修後に独学をしたことがある。	9.70%	6名
c. いいえ。	54.80%	34名

2) 「いいえ」と答えた人：独学が難しい、あるいはできない理由は何ですか。

他の授業が忙しいから。時間がないから。	11
何から始めていいのかわからないから。	8
モチベーションがない。	5
先生のガイドが必要だから。	5
教材がないから。	3
一緒に勉強する人がいないから。	2
ひらがなとカタカナが覚えられないから。	1

3) 「はい」と答えた人：

i. いつ、どのくらいの期間、独学をしましたか。

独学した時期

履修する1-2年前	5	履修後、数か月-数年間	3
履修する1か月前	1	履修中	2

独学した期間

2週間	1	4-6か月	4	5-9年	4
1-3か月	2	1-3年	7	10年以上	3

ii. どうやって独学をしましたか。

オンライン 15

様々なオンラインサイト	4	Learn Japanese	1
Duolingo	1	Instagram accounts	1
Genki online	1	Multiple choice quizzes	1
Torafugu practice charts	1	JLPT study blogs	1
reading online forums and explanations	1	jisho.org	1
ankiweb.net	1	wanikani.com (kanji)	1

動画 14

Youtube	5	Japanese pod 101	1
bilibili.com	2	ビデオ	1
アニメや日本のテレビ番組	2	乃木坂工事中	1
Learning Japanese youtube channel	1		

アプリ 15

Anki flashcard desktop app	3	Mind Snacks app	1
iPad app to learn hiragana/hiragana	3	Tae Kim's learning Japanese app	1
Human Japanese	1	Study Japanese NHK app	1
Hello Talk	1	Tsujiki app	1
app for vocab, kanji	1	Mondly Japanese app	1
Genki app	1	takoboto	1

本 11

Genki textbook+workbook	5	日本語多読ライブラリー	1
Living Language Japanese: The complete basic and Japanese kanji and kana	1	漫画	1
"Remembering the kanji" by Heisigs	1		

ゲーム 2

Chrono Trigger	1	色々なゲーム	1
----------------	---	--------	---

その他 7

授業で使用した教材	2	自作のフラッシュカード	1
Rosetta Stone	2	翻訳の勉強	1
歌の歌詞	1		

iii. 独学の難しい点は何ですか。どのように克服しましたか。

難しい点	克服方法
モチベーション(3名)	目標を設定した。
語彙(3)	フラッシュカードのアプリ、MP3、CD 何度も繰り返す
語彙や表現が正しく使えているか確認できない。(3)	hello talk アプリで友達を作ってチェックしてもらった。オンラインで誰かに聞いた。
文の構成(2)	理解するまで繰り返し考えた。
漢字(2)	オンラインリソース
リスニング(2)	話すスピードが速すぎるので、オーディオ教材のスピードを遅くしたり、何度も聞いたりした。

	誰かに繰り返してもらうことを悪いと思わないことが大切。
文法(2)	
一緒に勉強する人がいないこと(2)	
計画的に勉強できないこと(2)	<p>WaniKani に計画表がついているので、それに従った。</p> <p>漢字を勉強した後、文法を勉強すると、モチベーションが高まった。</p> <p>Genki 1 と 2 のスケジュール表を作り壁に貼ってチェックした。結局、授業を履修して勉強した方が有益だった。</p>
話すこと(1)	自分で練習して、母語話者の発音と比べた。
時間の確保(1)	アニメを見たり音楽を聴いたりして日本語に触れるようにした。
カタカナ(1)	覚えるまで練習した。
どこから始めていいのかわからない。(1)	
正しい発音(1)	
いい辞書がない。(1)	
文を読むこと(1)	

4) 教室に来る理由は何ですか。教室環境で日本語を学ぶことは、どんなことを提供してくれますか。

日本語に関すること 27	正しい発音が学べる。 文法や文の構造がよくわかる。 スピーキングが練習できる。 書く練習ができる。 リスニング力がつく。 新しい言葉や表現を教えてもらえる。	13 6 3 2 2 1
クラスメートとの学び 23	グループで練習ができる。 他の人と話すことでコミュニケーション能力が身に付く。 同じ目標を持った人たちと一緒に学べる。孤独ではない。 直接人と関われる。 クラスメートとの思い出ができる。	10 5 4 3 1
モチベーション 13	締切があるのでモチベーションにつながる。 勉強する時間とモチベーションを与えてくれる。 勉強しなければならない気持ちにさせてくれる。	7 4 2
	先生やクラスメートが説明してくれるから、すぐに解答が得られる。 間違いをすぐに直してくれてる。	12
	スケジュールに沿って勉強ができる。	12
勉強方法 8	勉強方法を教えてもらえる。何を勉強したらいいかがわかる。 教材を教えてもらえる。	7 1
教師に関すること 8	日本人の先生に教えてもらえる。日本人の先生は簡単に見つからない。 先生が授業を簡単に面白くしてくれる。	6 2
	将来日本で教えたいので、教室で言語を学ぶことは有益。	1
	文化を学ぶことができる。	1
	教科書を読んでいるだけでは得られない視点が得られる。	1
	定期的に日本語に触れられる。	1
	大学最後の年に単位の取りやすい科目だった。	1

5. 考察

5.1 リサーチクエスションの答え

1) 独学をしたことのある学生は 45.2% であり、大学の授業で初めて日本語を学ぶ学生が半数以上を占めている。独学方法はオンラインサイト、アプリ、動画、本など様々で、独学期間は 1-3 年が一番多い(独学者の 33%)。

2) 学生は独学の際に困難を感じており、その解決策を見出すために教室に足を運んでいる。学生の困難は日本語そのものを学習する際に生じる困難と、学習を始める、継続させるといった学習方法を確立する際に生じる困難がある。

5.2 教室の役割

上記のように、教室は学生が独学で遭遇した困難解決の手助けをする役割を果たしている。

大学の授業で日本語クラスを登録すると、学生は指定の教材を使いながらスケジュールに沿って学習を進めることができる。何をどうやって勉強したらよいかわからなかった学生は、これにより日本語の学習方法を知ることができる。いざ独学を開始しても、慣れない文法や文の構造、発音などに戸惑いを感じる学生もいるが、授業を通して日本語に対する理解を深めることができる。

学習方法を見出すことに困難を感じていた学生は、教室に来れば同じ目的を持った学生と情報を交換し合い、共に学び合うことができる。教室でクラスメートと一緒に日本語を勉強できること、宿題やテストがあることは、学生のモチベーションを維持するのに役に立っている。

5.3 教師の役割

初めて日本語を学ぶ学生の多くは、教室で教師から学びたいと思っている。また、「日本人の先生に教えてもらえる」「正しい発音が学べる」という回答があることから、日本語母語話者教師から習いたいと思っている学生が多い。サスカチュワン州、あるいはサスカトゥーンには日本人が少ないため、日本語教師が学生にとって、初めて出会う日本人である場合もある。新しい世界に足を踏み入れた最初の日のことを、後々までも覚えている学生は多いだろう。教師は初期の段階で、学生の興味を駆り立て、学習を深めていけるような授業を作っていく必要がある。

しかし、当然のことながら、学生は授業さえ聞いていればよいということではなく、教室の外での学習が重要になってくる。授業が学生にとって適切なバロメーターとなり、学生の教室外での学習を促すものであることが理想である。勉強方法がわからなかった学生が、徐々に自分に合った勉強方法を見つけ、自ら考えて学べるようになっていくことが望ましい。教師は学生一人一人が何を必要としているかを知り、適切な情報を適切な方法、適切なタイミングで提供すること、

学生が教師に頼り過ぎないように、適切な距離を保ちながらサポートしていくことが大切である。

6. おわりに

今回の調査では、過去3年間に日本語を履修した学生に一斉にアンケートを取った。しかし「独学」に対する状況は、日本語を初めて学ぶ一年目の学生と、既に学習経験のある二年目の学生では状況が異なる。そのため、学習年数ごとに別々に調査をした方が、状況に応じた詳しい独学状況がわかったのではないかと思う。学生の中には三年目の授業の開講を望む者もいるが、本学では今のところ実現できていない。そのため、講座終了後の学生への支援が課題であると感じている。二年間の日本語学習を終了した学生へアンケート調査を行うことで、その後の学習継続について考えるヒントを得られると考える。

アンケート調査の対象者の中には、既に卒業してしまった学生が何人かいた。また学期末に調査を行ったため、その後、長期休みに入ってしまった。これがアンケートの回答率が低くなった原因と考えられる。以上は反省点として、次回に生かしたい。

今回の調査では、学生が独学の際に使用している具体的なツールについても知ることができた。普段、授業で使用する教科書や副教材が中心となっている教師には、初めて聞くツールもあった。これらのツールを詳しく分析することで、学生の学習方法を知り、どんなツールがどのような学生に向いているのか、またどのような学習環境に合っているのかについて考え、支援に生かしていくことができるだろう。

今後も引き続き独学に関するアンケート調査を行い、学生の独学の実態やツール、独学と教室学習の役割について考えていきたい。